

平成 31 年 1 月 15 日
福祉部 福祉政策課
ダイヤル 0742-34-5196

「地域の支え合いフォーラム」の実施について

国と同様、本市においても少子高齢化、核家族化の進行、人口減少、地域のつながりの希薄化など、地域を取り巻く環境が変化しており、高齢者の社会的孤立が問題となっています。

高齢者が生き生きと暮らし続けるためには住み慣れた地域での生活が重要であることから、奈良市では「家族だけでなく、地域でも見守る」ための施策を展開してきました。

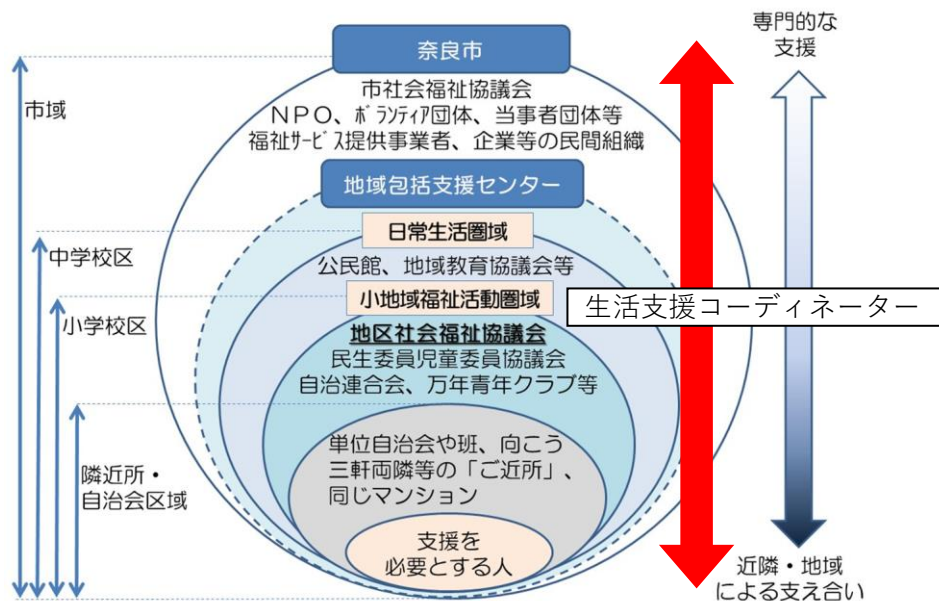
そのひとつとして、「奈良市安心・安全“なら”見守りネットワーク見守り協定協力事業」や「認知症見守り声かけ模擬訓練」を実施してきたところではありますが、地域の特性に合わせてさらにきめ細かく見守り支えるために、今年度「生活支援コーディネーター」を新たに配置したところです。

「地域の支え合いフォーラム」は、市民に「生活支援コーディネーター」の機能と役割について知っていただくとともに、「社会的孤立を防ぐ地域づくり」への第一歩をともに歩む意識ときっかけづくりの場とすることを目的として開催をするものです。

- 「生活支援コーディネーター」は、別名「地域支え合い推進員」と呼ばれており、「地域で暮らす方」と「支援する人やサービス」をつなぐための調整役となる専門職（14名配置）。
- その設置目的は、「地域住民相互の支え合い活動」を推進することであり、見守りだけでなく、地域の活動、交流の場や、高齢者を含めた地域住民を気にかけている人と、気にかかる人をつなげ、「地域住民相互の支え合い活動」による地域の課題解決、活性化を目指す。
- 「日常の暮らしの中で、助けられたり、助けたり」という「地域の支え合い」とはどういったものかを参加者と一緒に考える機会として開催するもの。

1 開催日時等 別紙チラシのとおり

2 現状の地域の支え合い活動



- つながりとふれあいを育む「居場所」 …300 ヲ所以上
 - ・ふれあいサロン
 - ・認知症カフェ
 - ・いきいき体操
 - ・子ども食堂 など
- 早期発見と安全-安心のための「見守り」…80 ヲ所以上
 - ・団地の見守りネットワーク
 - ・登下校時の見守り
 - ・一人暮らし高齢者への慰問 など
- ちょっとした手助けを行う「支え合い」…30 ヲ所以上
 - ・生活支援サービス (ゴミ出し、電球交換、話し相手等)
 - ・買い物の手伝い
 - ・移動サポート(送迎) など

【「生活支援コーディネーター」が取り組んでいくこと】

●通いの場づくり

介護予防や顔なじみの関係ができるように、運動や体操、会食・お茶会、おしゃべりの場等、お住まいの地域の身近なところで気軽に通える場所づくりを進めていきます。

●地域の支え合い活動の「見える化」

各地域で行われている様々な福祉の支え合い活動の情報を集め、社会資源マップなどにまとめて見える化を図っていきます。

●担い手発掘・人材づくり

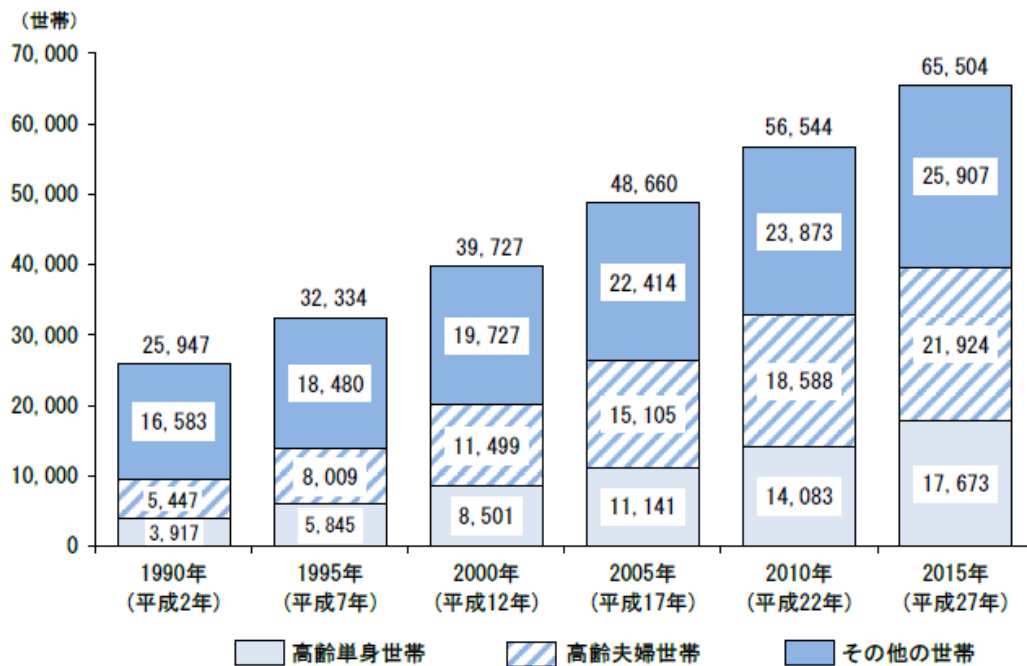
困っている人へ何かできることがないか探しておられる方に対して、福祉に関する知識習得や地域とのかかわりのきっかけづくりをサポートします。

1 本市における高齢単身世帯・高齢夫婦世帯の割合の推移

(奈良市老人福祉計画及び第7期介護保険事業計画より抜粋)

高齢者がいる世帯は、年々増加しており、2015年（平成27年）は、高齢単身世帯が17,673世帯、高齢夫婦世帯が21,924世帯で、1990年（平成2年）に比べて高齢単身世帯は4.5倍増、高齢夫婦世帯4.0倍増となっています。

高齢者世帯の推移 ～25年前に比べ、高齢単身世帯が4.5倍に急増～

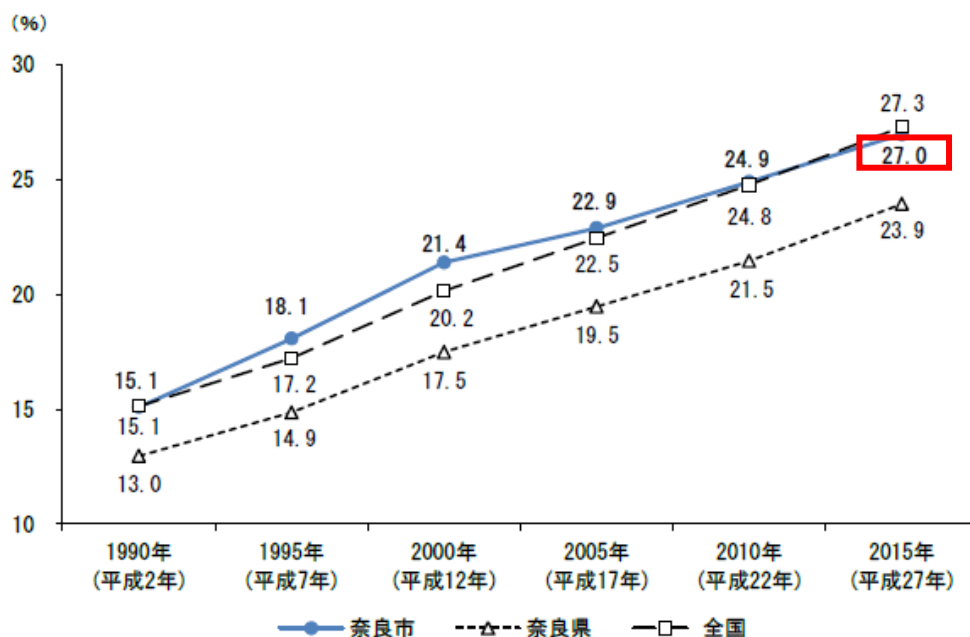


※高齢夫婦世帯とは、妻60歳以上、夫65歳以上の世帯

資料：国勢調査（各年10月1日現在）

高齢単身世帯の割合（全国・奈良県との比較）

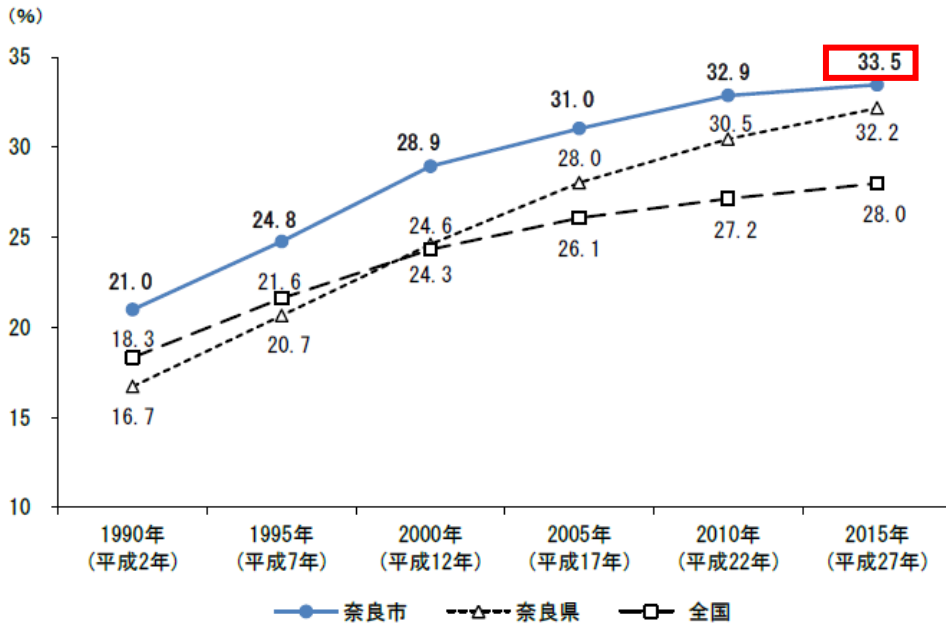
～高齢単身世帯の割合は全国並だが、県平均を3ポイント上回る～



資料：国勢調査（各年10月1日現在）

高齢夫婦世帯の割合（全国・奈良県との比較）

～高齢夫婦世帯の割合は全国・県平均をいずれも超えている～



2 本市における生活圏域別の高齢単身世帯・高齢夫婦世帯の割合

（奈良市老人福祉計画及び第7期介護保険事業計画策定のための高齢者日常生活圏域ニーズ調査【結果報告書】より抜粋）

※市内に居住する65歳以上の要介護1～5以外の一般高齢者及び要支援者 6,500人

【生活圏域別】

「1人暮らし」と「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」を合わせた割合が登美ヶ丘圏域では72.0%と最も高く、東部圏域では43.4%と最も低くなっており、地域毎に特性がみられます。

